

才三十二野戦兵器廠略歴

年月日	概	要
昭一九九二五	関東軍野戦兵器廠哈爾濱支廠に於て編成完結 俄籍才三十一野戦兵器廠と称す	
一、一、六	才一梯団指揮官 大尉 伊藤玄治 才二 大尉 大野治三郎 才三 大尉 中本英治	
二、一、二二	那覇上陸 南風原村に廠開設	
三、一	才三十二野戦兵器廠と編成改正	
三、二二	敵機による大空襲	
四、一	敵「ガ」本島進攻開始	
四、二〇	島尻西地区配備……連隊本部	
五、一六	大城森 才一大隊 米満 才二大隊 米須喜屋武 才三大隊 大里眞栄手、線 主力を南風原村へ転進	
五、二二	敵与那原方面より進攻、雨乞森大里南風原附近に進軍	
五、二六	敵の米襲に対し自兵甚退吾損五〇%	
六、五	破名城附近陣地敵迫毒砲による損耗大	
六、一三	杉本火佐を陣頭に突入玉砕	

電信才三十六連隊略歴

新編制部隊 (通称号)	完結年月日	復	帰	部
電信才三十六連隊 (球才八八三〇部隊)	昭和二二年二月十日			
		才三十二軍通信隊 (球才一八八〇二部隊)		電信才二連隊補充隊 (西部才八十一部隊)
		独立無線才一三五三小部隊 (球才一二五三三小部隊)		同右
		独立無線才一五三四小部隊 (球才一二五四〇小部隊)		同右
		独立無線才一五四一六小部隊 (球才一二五四一六小部隊)		同右
		独立無線才一二九七四中隊 (球才一二九七四中隊)		東部軍司令部
		独立無線才一二九三二小部隊 (球才一二九三二小部隊)		同右
		独立無線才一二九三五小部隊 (球才一二九三五小部隊)		同右
		独立無線才一二九〇六中隊 (球才一二九〇六中隊)		電信才一連隊補充隊 (東部才八十八部隊)

備考	一 復帰部隊を以て新編制部隊を編成せり 二 新編制部隊の人員補充業務管理官は東部軍管区司令官 人員補充業務担任部隊長 電信カ一連隊補充隊長なり 三 復帰部隊は昨年十月十日大陸命カ一四五号に依りカ十二通信隊(球カ一八八三〇部隊)を編成しありたり	新編制部隊 (通称号)	完結 年月日	復 帰 部	部 隊 名 (通称号)	部 隊 名 (通称号)
		独立無線カ一〇〇小隊 (球カ一九一八部隊) 電信カ二十七連隊カ五中隊 (球カ一九二三部隊)	留守業務担任部隊 (通称号) 電信カ一連隊補充隊 (東部カ八十八部隊)	同右		

野戦高射砲カ七九大隊隊歴

年月日	概	要
昭一九七三五 七三〇	千葉市国府台本部カ七十三部隊に於て編成完結す 門司乗船	
八一一	出港沖繩那覇港に向う	
八一〇	カ一中隊及大隊東部那覇着	
八三三	カ二中隊カ三中隊那覇港着	
五五四	島尻、興儀附近の戦斗	
五五五	島尻、米須附近の戦斗	
六五七	那覇転進	
一〇	対空戦斗 対戦車陣地 地上戦斗 高橋町陣地潰滅 中隊全員米須部隊東部の壕に入る	

野戦高射砲方八十六隊略歴

年月日	概	要
昭一九七二〇	帝都防空の集団より現役特約二五〇名 外に宮城 福島 新潟 富山 長野 群馬 埼玉 東京 横浜 栃木 茨城 千葉各連隊より予備特約二七一名を臨時召集	
七、二二	編成完了し方三二軍の隷下に入り通称号を球二一七三部隊とす	
七、二四	松戸取出発	
七、二六	門司到着	
八、一	門司港出發	
八、一〇	沖繩県那覇港上陸、以後警備戦斗に入る	

救国砲方一〇三大隊略歴

年月日	概	要
昭一九七一九	東部方七四部隊に志召、同日高射救国砲方一〇三大隊方〇中隊に編入	
七、二一	東部方七四部隊に於て動員完結	
七、二四	千葉出發	
八、一	門司港出發	
八、一〇	那覇港到着	
八	中頭郡読谷村善名看 北飛行場警備	
一〇、一〇	一〇、一〇南西諸島空襲戦斗参加	
一〇、一一	台湾沖航空戦に参加	
一〇、一一	喜名岬空襲戦斗、同日より那覇港防衛	
一〇、二一	沖繩空襲戦斗に参加	
二〇、三、二二	那覇北方天久安謝に陣地変換	
三、二六	独立混成方四四旅団に配属、沖繩地上戦斗に参加	
五、一一	安謝川附近の戦斗に参加	
五、一一	天久附近の戦斗に参加	
五、二二	松川首里附近戦斗に参加	
五、二二	中隊長各小隊長並下士官兵の戦死負傷続出にて方二中隊の中隊として行動は此の日を以て殆んど終り、総員一四〇名 三〇名内外となる。	

年月日

概

要

爾後方四回旅団司令部の直轄となり切込作戦に参加しありたり。

野戦重砲兵第二十三連隊戦歴

年月日

概

要

昭一七、四、三五

編成完結

於滿洲国東滿總省梨樹鎮

部隊長 陸軍大佐 神崎清治

同省八面通に移駐

八面通附近警備

動員下令

駐屯地出發

内地港灣出港（鹿見島）

沖繩那霸港着

同日より沖繩那覇中頭群島尻郡の警備

入重瀬兵觀測所を包ヶ団せられ戦斗不能に陥りたるに依り 列小渡に連絡、同夜

部隊長を先頭に斬込を敢行す

二〇、六、一九

一〇、三二

一〇、七

九、一

一九、八、三二

自一七、一〇、一八

至一八、八、三二

一〇、一八

年月日	要
昭和一九、八、一四	牡丹江渡河屯営出発
至自 三、九、一一	沖繩本島陣地構築
至自 三、三、三	甲号戦備下令
至自 三、二、五	湊川地方△高低地及具志頭附近の戦斗(方四中隊は伊祖)
至自 四、四、六	本部材料廠は伊祖方一中隊西原(初期一部上原)方四中隊嘉敷(一部伊祖)方
至自 四、三、七	五中隊西原に於ける戦斗
至自 五、四、二	本部沢原方一中隊△高低地(△△に配属)方四中隊材料材料廠内方五中隊前田
至自 五、四、三	の陣地に於ける戦斗
至自 五、一、四	前田陣地の戦斗
至自 五、一、三	首里に於ける戦斗
至自 五、二、七	興座仲座附近の戦斗
至自 六、一、八	以降遊喜戦に移行
至自 六、一、七	

独立白砲方一連隊略歴

要

年月日	要
昭和一九、一〇、二	大阪府府中中部方二十二部隊に於て編成着手
五	編成完結
六	大阪港出発
一、二	沖繩那覇港到着
一、三	那覇港上陸
一、四	那覇港出発
一、四	沖繩泉島尻那覇那原に到着、左の如く配備し中城湾の警備に任ず
一、五	連隊本部(興那原) 方一中隊(津堅島) 方二中隊(伊計) 方三中隊(平敷) 方四中隊(那覇)
一、五	津戦備下令日津戦備完結
一、五	編成改正に依り左の如く配備 三中城湾の防衛に任ず
一、五	連隊本部(興那原) 方一中隊(津堅島) 方二中隊(知念半島) 方三中隊(小縁)
一、五	中城湾要塞司令部の隷下を離し方三十二軍の隷
一、五	中城湾要塞重砲兵連隊を重砲兵方七連隊は改称せらる連隊本部を興那原の東南
一、五	雨乞山麓に移駐す
一、五	方三中隊興那原連隊本部へ移駐す

年月日	概	要
昭二九、七、一二	独立混成四十四旅団の指揮下を離レテ九師団の指揮下に入る	
一〇、一〇	南西諸島の空襲対空戦闘参加	
二〇	才三中隊大里村西原へ移駐す	
三三	連隊本部を大里村大里城趾本部陣地に移駐す	
四五	津堅島戦闘参加	
五五	雨乞大西原戦闘参加	
五五	稻福、慶良原戦闘参加、具志頭に於て挺身斬込に参加	

年月日	概	要
昭一九、六、七	編成地 満洲国黒河省神武屯	
二〇、三、三	動員下令 同満洲国黒河省神武屯出発 釜山出港 同七沖繩那覇港着 上陸完了	
六三	甲号戦備下令	
五三	玉碎	
	編成表備並に指揮隷属内容	
	左の如し編成出帆本島着后 IC 1, 2, 3 は都古島警備に任ず	
	部隊長 大佐 山根 忠	

独立機関銃ヲ十七大隊部隊略歴

概

要

年月日

昭一九、八、一五

弘前東部五七部隊に於て編成完結

門司港出航

那覇上陸

同日附テ九師団に配属せラル島尻地区の防衛に任ず

九、四

方二四師団に配属変更

主力(方三中隊欠)は歩兵方三十二連隊に方三中隊は歩兵方二二連隊に配属せ

ラル島尻地区の防衛に任ず

一三、六

独立機関銃ヲ三大隊部隊略歴

概

要

年月日

昭一八、六、二一

大阪野砲兵方四連隊に於て編成完結

大阪発

鹿児島港出帆

九、二二

那覇港上陸ヲ三十二軍の隷下に入り方二十四師団に配属せラル沖縄本島の防衛

九、二八

に服す

部隊の中 <sup>1195</sup>(2.3) は歩兵方三十二連隊に <sup>1195</sup>は歩兵方二十二連隊に <sup>1195</sup>捜索方二十

四連隊に、部隊戦斗至過概要(陸軍火尉上田恒夫)

甲号戦備下令当時部隊は方二十四師団の指揮下に在リ方一中隊及本部は歩兵方

三十二連隊に配属糸満南部大里国吉の線にあり独立工兵六十六大隊の一ヶ中隊

を配属スル同地の防備に方二中隊は歩兵方二十二連隊に方三中隊は歩兵方八十

九連隊に配属せラレザレ、戦備を撤す

二〇、三、二四

首里北方の線に転進

四、二二

軍の攻塵に当リ各歩兵連隊と共に前田に攻塵前進す、爾後各部隊の方一線大隊

五、四

に協力し戦斗をなす

五、二九

軍は首里の線を捨て後退するに当リ部隊は之が機護を命ぜラル首里北方高地に

六、一

於て激戦を続行

六、五

国吉に後退し国吉真壁の線を死守(大隊長は歩兵方三十二連隊の方二大隊長と

年月日

昭二〇六三  
八三

概

不る  
以降遊軍戦  
勅令により米軍の指示を受く

要

独立機動隊第六大隊部隊編成

年月日

昭一九五  
六三

概

要

陸軍第六〇〇号に依り動員(カ一曰)着手  
編成完了  
編成主体——中部軍(中部三七、元奈良連隊、元津連隊、敦賀連隊及阜岐連隊)  
編成場所——中部三七部隊(元京都歩兵九連隊)  
比呂出発  
鹿嶋島港出発  
沖繩港着  
以後陣地構築並戰鬥に入る



独立迫撃隊

概

要

年月日	概	要
昭一、九、八、二〇	将校及下士官を召集 群馬県沼田東部四十一部隊に召集	
八、三二	群馬県利根郡赤城兵舎で編成完了	
昭一、〇、一三	幹部及兵の教育を実施す	
一〇、一七	沼田駅出発	
一、一	竹司着 同地に宿営	
二、五	竹司港出帆	
二、八	鹿児島港着	
一、一、八	鹿児島港出帆せるも沖縄本島空襲の急鹿児島にも入り待機	
一、一、二二	鹿児島港出帆	
二、五	沖縄島上陸沖縄県首里市大名町宿営駐留す	
一、三、一〇	迫撃大隊編成せり	
一、二	中隊は大名町二三角兵舎を築業せり。其の間に中隊指揮班一小隊は中頭郡南上原に陣列 二小队は棚原に陣地構築に精勵	
二、〇、三、二五	号戦備下令共に中隊は大名町に於て戦斗配置につく	
三、〇	中隊は島尻郡前川に転進せり	
四、六	前川より中頭郡南原に転進 之が防備に努めたるも敵の攻襲急にして遂に馬乗り攻襲を蒙りけり	

四、八	指揮班長小宮火尉以下多数の死傷者を出せり
四、一〇	中隊は前田村一四二高地に迫撃一ヶ隊松田大尉の指揮下に参加す
四、二〇	中隊は一小隊ニヶ分隊二小队ニヶ分隊は坂元(石)十一大隊に配属なり 西原村棚原を十一大隊の指揮下に在り
四、三〇	(石)十一大隊は前田村に転進せり 中隊の十一大隊配属分隊は中隊本部に帰下る

独立迫込六五中隊部隊略歴

年月日

概

要

昭二九、八、三五	群馬県沼田東部四一部隊に於て動員完結
九、一六	沼田出発
一〇、九	鹿見島港出発
一〇、一〇	沖繩本島空襲の帰港
一〇、二〇	鹿見島港再出発
一〇、三二	那覇港に到着
二〇、四、九	中頭部南上原榑原附近の戦斗に参加
四、一二	前田西原嘉敷附近に移動
四、二〇	頃まで同地附近の戦斗に参加
四、三二	頃前田附近に移動 同地附近の戦斗に参加
四、三五	頃沢岬に移動
五、二八	首里後退まで沢岬 平末吉松川町内間、安波茶、大山、首里 附近の戦斗に参加
五、二九	津嘉山南十字路に移動
六、四	頃長門聖由座波に移動
六、一〇	頃興福地附近に移動 福地、 <sup>七、二、二</sup> 前平 附近の戦斗参加
六、一六	水津附近に移動

六一七

遊撃戦戦後

野戦高射砲方八十一大隊略歴

年月日

概

要

昭一九、七、三一

福井県鯖江町中部八〇部隊にて編成

編成完結

門司港出帆

沖繩那覇港上陸

中頭郡読谷村伊良皆北飛行場の防空任務に就き方二四師団に配属せらる

大隊本部伊良皆方一中隊大木方二中隊 楚辺 方三中队伊良皆に夫々配陣する

西後陣地構築教育訓練に邁進す

対空戦斗に参加 戦果甚盛五機 撃破十四機

対空戦斗に参加 撃破三機

対空戦斗に参加 撃破二五機

対空戦斗に参加 撃破十二機

初旬より大隊兵力の三分の一を以て本部中頭郡西原村前田二一中隊中頭郡大里

村誉那原附近に方二中隊嘉敷に方三中队波茶城向内陣に陣地構築を開始す

前記新陣地に到着

本部方一中隊方二中隊方三中队主力は六十二師団六十三旅団に方三中队の一部

は同師団六四旅団に配属せられ対戦車戦斗に任務す

敵上陸地上戦斗開始せらるるや敵機軍十五輛を擱坐炎上敵機約一五〇名を殺

傷するの戦果を挙ぐるも火砲全門破壊せらる

我方兵員三三〇名戦死傷す依って

首里南部戦名に転進す

残存兵力一六〇名を以て高射砲大隊を編成し(ニヶ中個)

方一中隊長加藤中尉の六十二師団六十三旅団に

方二中隊長光枝中尉は同師団六十四旅団に配属され

戦名出発新川を経て

山川陣地に就き戦斗す

新城を逐て眞珠平陣地に到着戦斗をしつつ眞壁に到る

残存兵力約一五〇名大隊長以下全員斬込みを敢行す

至日

五、一〇

五、二五

五、三三

六、一〇

六、二二